｜分科会 G｜【性の多様性】 講演、パネルディルカッション

生と性の多様性をみとめあうために
～教育・企業・行政の立場から～

■日時：11月14日(土)　10:00～11:30

＜講師・コーディネーター＞
風間　孝
中京大学教養教育研究院教授

＜パネリスト＞
浦田　幸奈
愛知県中学校教員

加藤　聡人
加藤精工株式会社代表取締役社長

樋口　進
豊明市役所市民協働課

報 告 要 旨

報告者：風間　孝（コーディネーター）

1　目的

一人ひとり異なる生と性のあり方を正しく理解し、認め合える社会になるために、①LGBTをとりまく環境について正しく理解する、②日常生活における不都合を知り、暮らしやすい社会をつくる、③自分を大切にし、相手の大切さも認め合える社会をつくる、の３点を目的として分科会を開催した。

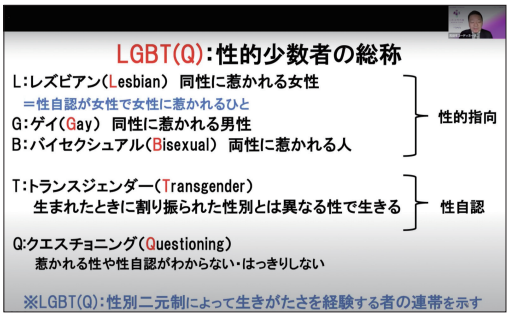
2　内容

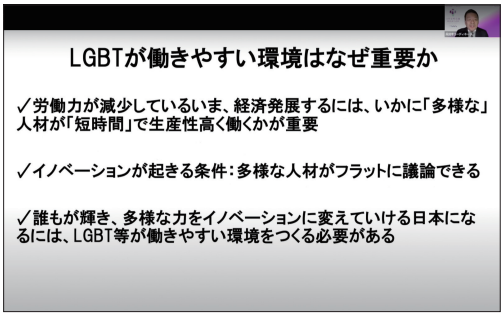
（1）開会挨拶

分科会リーダーの早川宣子より、この分科会が11人のメンバーにより準備された経緯と分科会の目的（上記１を参照）について説明がおこなわれた。

（2）講演：LGBTをめぐる状況～教育・企業・行政～

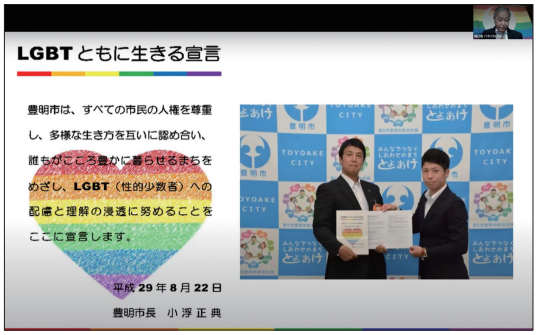
コーディネーターの風間孝（中京大学）が性の多様性についての基礎知識、そして教育・企業・行政におけるLGBTをとりまく状況について講演を行った。その中では、①ひとの性には身体の性に加えて、性自認、性表現、性的指向という４つの側面がある、②LGBTの生徒の７割が学校でいじめを経験しており、そのいじめはLGBTのメンタルヘルスを悪化させる要因にもなっている、③LGBTは企業における性的指向・性自認の理解不足が原因で求職時、そして就職後に困難を抱えている、④自治体が性の多様性について対応する理由として、住民には必ずLGBT等が含まれ、日常での被差別経験から行政サービスの利用に不安を抱いていることなどが報告された。





（3）パネリストの自己紹介と取り組みの報告

３人のパネリストから、自己紹介を兼ね現場での取り組みを報告してもらった。



まず浦田さんからは、生徒および全校にカミングアウトした経験、その後の転任先で女性の教員として勤務している経験が語られた。そして性だけでなく障害や国籍を含めた多様性が学校で当たり前に存在することを目指した実践の紹介があった。つぎに加藤さんからは、「個性を発揮し、組織力を上げる」ために、LGBTQについての研修の実施、同性パートナーを配偶者と認めていること、性別適合手術やホルモン治療を理由とした休暇取得を認めていることが報告された。最後に樋口さんからは、平成29年に豊明市として「LGBTとともに生きる宣言」をして以降、市民への啓発を進めつつ、一般職員、幹部職員、市議会議員等に対しても全員研修を実施してきたこと、そして令和２年よりパートナーシップ宣誓制度を開始したとの報告があった。

（３）パネルディスカッション

コーディネーターより、パネリストに対して３つの質問を行った。LGBTの取り組みがそれぞれの現場でどのように受け取られているかが最初の質問であった。浦田さんからは、職場では通称名を使用できる等の配慮をしてもらっていること、また保護者からは目立った反応はなかったが、応援していますと声をかけてもらった経験が紹介された。加藤さんからは、取り組み前からカミングアウトしていた社員がいたこともあり、取り組み自体を特別視する認識は社内になかったとの報告があった。樋口さんからは､市民からは批判的な意見は届いていないこと、そして当事者からよくやってくれたという声が届けられたとの話があった。

つぎに取り組みを始めたことによる変化について尋ねた。浦田さんからは、性的マイノリティがいて当然という考えが広がり、生徒から制服等の要望が出てきたときに備えて対応していこうという話が学校で出ているとの報告があった。加藤さんからは、取り組みを始めてカミングアウトした従業員が出てきたわけではないが、会社の考えを従業員に知ってもらうとともに、地域に伝わる中で今回の分科会に呼ばれたように地域との接点が増えたと感じている、との話があった。樋口さんからは、職員研修を通して市の職員全体として理解が高まり、書類等における不要な性別欄を順次削除する動きが生まれたことが紹介された。

最後に、取り組みを始めようと考えている人への助言を尋ねた。浦田さんからは、当事者は学校にすでにいることを認識すること、偏見を持っていないという姿勢を示すことの重要性、当事者の希望が一人ひとり異なることを踏まえたうえで、寄り添うことの大切さが語られた。加藤さんからは、トップが事実を知り、自分の課題と照らし合わせて何をするべきかを考えること、また当事者のサポートを得ながら取り組みを進めることの重要性が指摘された。樋口さんからは、市の職員だけでなく、市議会議員や民生委員、児童委員、教職員の理解を促進することの重要性が強調された。このあと参加者からの質問に答え、パネルディスカッションを終了した。

（４）閉会挨拶

最後に分科会副リーダーの杉本浩子から、今後の取り組みとして、分科会での取り組みを活かし「日本女性会議2020あいち刈谷」を第一歩（ファーストステップ）と位置付け、性の多様性が尊重し合える環境を作っていきたいとの閉会の挨拶が行われた。

３　当日の総括

これから各地域で取り組みを始めようと考えている参加者に対して、教育・企業・行政の立場から、それぞれの取り組みのモデルと、取り組みによって肯定的な変化が生み出されることを示すことができた。また刈谷市においても､「日本女性会議2020あいち刈谷」をきっかけに、性の多様性が尊重し合える環境づくりを進めていきたいと考える。

●企画メンバー

早川　宣子　安藤もも香　石原　春代　稲生　令子　風間　　孝　杉本　浩子　当麻志津香　長谷川淳子
原田ゆかり　前田　末子　山﨑嘉代子